

# ティーチング・ポートフォリオ

山村学園短期大学保育学科／子ども学科

講師 福泉 博子

## 1. 教育の責任

私は子ども学科の教員として保育士資格、幼稚園教諭2種免許状取得における音楽・ピアノにおける分野の教科を担当している。

2020・21年度の担当科目は（表1）の通りである。

| 科目名       | 開講年度 | 学期 | 対象学年 | 種別 | 受講者数 | 備考   |
|-----------|------|----|------|----|------|--|
| 音楽        | 2020 | 通年 | 1年生  | 演習 | 25名  | 3クラス<br>※前期<br>教員2名                            |
|           |      |    |      |    | 24名  |  |
|           | 2021 | 通年 | 1年生  | 演習 | 24名  | ※後期<br>教員5名                                    |
|           |      |    |      |    | 22名  |  |
|           |      |    |      |    | 22名  |  |
| ピアノ A     | 2021 | 前期 | 2年生  | 演習 | 23名  | 3クラス<br>※教員4名<br>コロナのため、1<br>年前期科目を2年<br>前期に移動 |
|           |      |    |      |    | 24名  |  |
|           |      |    |      |    | 23名  |  |
| ピアノ B     | 2021 | 後期 | 2年生  | 演習 | 23名  | 3クラス<br>※教員4名                                  |
|           |      |    |      |    | 24名  |  |
|           |      |    |      |    | 23名  |  |
| 音楽表現の探究   | 2020 | 後期 | 1年生  | 演習 | 36名  | 2クラス<br>※教員1名                                  |
|           |      |    |      |    | 35名  |  |
|           | 2021 | 後期 | 1年生  | 演習 | 33名  |  |
|           |      |    |      |    | 33名  |  |
| 子ども文化演習 B | 2020 | 後期 | 2年生  | 演習 | 70名  | ※教員3名  |
| 子ども文化演習 B | 2021 | 後期 | 2年生  | 演習 | 71名  | ※教員3名  |
| 基礎演習      | 2021 | 通年 | 1年生  | 演習 | 66名  | ※教員4名  |

|                   |      |    |      |    |      |         |
|-------------------|------|----|------|----|------|---------|
| キャリアアップ<br>セミナー I | 2021 | 通年 | 1 年生 | 演習 | 66 名 | ※教員 4 名 |
|-------------------|------|----|------|----|------|---------|

(表 1) 2020・2021 年度 担当科目詳細一覧

| 委員会名                                     | 年度           | 備考   |
|--|--------------|--|
| 図書・紀要委員会<br>(委員長として)                     | 2020<br>2021 | 図書・DVD等の購入。<br>紀要の編集と発行。図書館便りの発行。<br>埼玉県 図書館と県民のつどいへの参加。<br>図書館アンケートの実施。学園祭への参加。<br>くつろげる空間づくり等を行う。  |
| 学生支援委員会<br>(2020 委員として)<br>(2021 委員長として) | 2020<br>2021 | 新型コロナウイルス感染症対策。<br>学生の学園生活の指導や支援と心のケア。<br>遠隔地通学生、職業訓練生の対応と支援。<br>学生のあいさつ運動やマナー向上。<br>学生会（総務委員会・山緑祭実行委員会）の対応<br>学生総会・学園祭等の学生主体行事の取りまとめ<br>サークル活動の対応。<br>各種奨学金に関する対応。<br>避難訓練、交通安全運動の実施。 |

(表 2) 2020・2021 年度 委員会詳細一覧

## 2. 教育の理念

私が音楽教育に携わってきた中で、保育者を目指す学生たちに対して心がけていることは、音楽の基本や原点を丁寧に指導するとともに、感じる心や想像力を養うことである。そして、子どもたちと一緒に音楽活動を楽しみ伝えることができる人材を育成することである。

保育者を目指す学生の中には、ピアノ未経験者や初心者が非常に多く、基本的な知識も皆無である。音楽の知識やピアノ奏法などの技術を学ぶことは大変困難ではあるが、2年間という短い時間の中で保育者として自信をもって音楽活動に取り組めるよう、次にあげる5つの項目を学生に習得してほしい。そして、広い視野と柔軟な心や発想力で子どもたちの心を育むとともに、保護者や地域の方と関わってほしいと考えている。

- ①楽譜を読む力（読譜力）
- ②演奏する力（ピアノなどの鍵盤楽器・こども達が扱う楽器）
- ③歌唱力（正しい発声ができる。適度な声量で子供と一緒に楽しみながら歌える。）
- ④感じる力（自然や生活の中で五感を使って感じる）
- ⑤表現する力（声や体、楽器はもちろん様々な手法を使った音の表現）

### 3. 教育の方法

担当している教科は演習科目であり、1名で担当する科目もあれば、複数で担当する科目もある。ここでは、専門分野の「音楽」「ピアノ A」「ピアノ B」「音楽表現の探究」の4科目についての教育の方法を示す。

#### （1）音楽（通年）

##### 【授業の概要】

保育士資格必修の本科目は保育者として必要となる音楽の基礎的な知識、技能の理解と習得を目指す。そのため、楽典や歌唱法、ソルフェージュに関する授業を前期に、ピアノや弾き歌いなどの個人レッスンを後期の授業で実施し、音楽全般について総合的に学習します。また、本学の自然環境を生かした音遊びの中で五感と想像力を養う。

##### 【ねらい】

- 1) 幼稚園や保育所などで歌う「こども・幼児のうた」の特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながら幼児の指導ができる力を身につける。
- 2) 自然や生活の中にある音を感じ、声や身体、楽器、身近にあるものを使って音楽を奏でる方法を習得する。また、それらの方法を用いて、こどもの発達に合わせた活動が出来るようにする。

##### 【内容と到達目標】

###### 前期授業

- ①こどものうたの特性を学び、ピアノで弾き歌いをしながらこどもと関わる。
- ②音楽の知識を身につけ、一人で読譜ができるようにする。
- ③自然や生活の中で音を感じとり、色や形、オノマトペなどでの表現をする。
- ④手作り楽器の制作と遊び。

前期は2名の教員で授業を行う。①②では音楽（ピアノ）未経験・初級者クラスと経験者クラスの2グループに分けグループレッスンや個別指導で学生一人一人が理解できるよう心掛けた。また、③④ではグループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と人とのかかわりを学べるようにした。

## 後期授業

- ①初級者は、ピアノ・弾き歌い進度表(山村短大オリジナル)の応用Ⅱまでの習得。
- ②中級者は、ソナチネアルバムⅠやブルグミュラーの習得。
- ③上級者は、ソナタアルバムや同レベルのピアノ曲の習得。
- ④生活のうた、季節のうたなどを通して、こどもの心に伝わる歌い方ができる。

後期では5名の教員でピアノレッスン(個人レッスン)を毎週行う。学生一人に対してのレッスン時間は18~20分。その他の時間は個人練習時間とし、課題練習の時間にあてた。ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個々にあった指導を心掛けている。

### (2) ピアノ A (2021 年度 1 年生・前期)

#### 【授業の概要】

保育現場で必要とされる鍵盤楽器(ピアノ)の奏法を学ぶ。ピアノ未経験者から上級者まで、個々のレベルに合わせたレッスンを行う。初級者はバイエルなどの教則本を使い初歩的技術の習得を、中・上級者はソナチネなど様々な楽曲を用いて総合的な音楽力を身につけ、園生活で使われる基本的な生活の歌を習得する。

#### 【ねらい】

読譜力を身につけ、正しい運指法、打鍵法で演奏できるようにします。幼稚園・保育所等で歌う生活の歌を弾き歌いできるレベルを目指す。

#### 【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、4名の教員でピアノレッスン(個人レッスン)を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15~20分程度。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。

- ①音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる。
- ②初級者は「ピアノ・弾き歌い進度表」の基礎Ⅰまでを、中級者は基礎Ⅲまでを、上級者はソナチネ・ソナタ・ブルグミュラーなどが演奏できる。
- ③園で歌われる生活の歌や季節の歌、童謡などが弾き歌いができる

### (3) ピアノ A (2021 年度 2 年生・前期)

新型コロナウイルス感染症の影響により、1年生前期から、2年生前期に授業実施期間を変更した。

### 【授業の概要】

この授業は「音楽」における習得成果を踏まえ、保育現場で必要とされる鍵盤楽器(ピアノ)の奏法や弾き歌い、和音やコードを使った伴奏付けなどに必要な技能を学ぶ。

### 【ねらい】

音楽的な資質・能力を高め、実際に保育現場から求められる要求に応えられる専門性を身につけることができる。習熟度の低い学生は、読譜力と演奏技術の向上を目指す。

### 【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、4名の教員でピアノレッスン(個人レッスン)を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15~20分程度。保育現場でのピアノを使った活動に困らないように、読譜力向上に力を入れた。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。

- ①音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる。
- ②習熟度の低い学生はバイエル100番程度の難易度の曲が演奏できる。弾き歌いでは和音や分散和音を用いたこどもの歌が弾きこなせるようになる。
- ③中上級者はブルグミュラー、ソナチネ、ソナタや、それらと同等のピアノ曲を演奏することができる。また、コードや伴奏法を用い、童謡などに伴奏がつけられるようにする。以上の3点を到達目標とした。

## (4) ピアノB(2020年度2年生・前期)(2021年度2年生・後期)

### 【授業の概要】

この授業は「音楽」「ピアノA」における習得成果を踏まえ、保育現場で必要とされる鍵盤楽器(ピアノ)の奏法や弾き歌い、和音やコードを使った伴奏付けなどに必要な技能を学ぶ。

### 【ねらい】

音楽的な資質・能力を高め、実際に保育現場から求められる要求に応えられる専門性を身につけることができる。習熟度の低い学生は、読譜力と演奏技術の向上を目指す。

### 【内容と到達目標】

授業は演習形式で行い、4名の教員でピアノレッスン(個人レッスン)を毎週実施する。レッスン時間は一人に対して15分程度。現場でのピアノを使った活動に

困らないように、読譜力向上に力を入れた。学生にはピアノ進度表【山村短大オリジナル】を配布し、視覚からも成長がわかるようにした。ピアノ、弾き歌いとも個々の進度に応じ、難易度別に設定される曲目をクリアしながら各自がレベルアップを図る。

- ①音名、音符、リズム、拍子を理解し、ひとりで読譜し演奏することができる。
- ②習熟度の低い学生はバイエル 100 番程度の難易度の曲が演奏できる。弾き歌いでは和音や分散和音を用いたこどもの歌が弾きこなせるようになる。
- ③中上級者はブルグミュラー、ソナチネ、ソナタや、それらと同等のピアノ曲を演奏することができる。また、コードや伴奏法を用い、童謡などに伴奏がつけられるようにする。

#### (5) 音楽表現の探究 (1年生・2020年後期)

##### 【授業の概要】

保育士資格選択必修、幼稚園教諭2種免許状必修〔大学が独自に設定する科目〕  
この教科は、幼児の感性や創造性を育む方法や構成を実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能・表現力の習得を目的とする。また、発表会などのステージ発表を通し、準備工程や他者との協働の大切さを学ぶ。

##### 【ねらい】

- ①音楽遊びを通して幼児の音楽的感覚を育てる方法を学ぶ。
- ②合唱や合奏活動を通じて歌唱法や幼児が使う各種楽器の奏法を学び、保育者に必要とされる指導技術を身につける。
- ③発表会や行事の準備を通して園行事(音楽会)の流れを習得する。

##### 【内容と到達目標】

音楽遊び・音楽づくり・リズム遊び・合唱・合奏等の授業を行う。子どもの遊びや活動の中に音や音楽を取り入れた展開が行えるようにする。

到達目標は、次の①～⑤とする。

- ①表現が目指すもの、もたらすものを学び、音楽の力が幼児に与える影響を理解、分析することができる。
- ②表現する楽しさを実感し、合唱や合奏を通してハーモニーの重なりや美しさを楽しむことができる。
- ③歌詞や旋律が意図することを理解し、より幅広い表現ができるようにする。
- ④協働して表現をしていく事を通し、他者と共感しながら豊かな表現につなげていくことができるようにする。
- ⑤表現の知識技能を活かし、幼児の表現活動に展開させることができるようにする。

#### 4. 教育の成果、評価

2020年度の前期・後期定期試験前に学生に対して授業アンケートを実施した。

(表3-1~4)各設問の内容は次の通りである。

問1：学生自身の取り組みについて

問2：授業の内容について

問3：授業の進め方について

問4：全体的評価

2020年度の前期授業アンケートの結果一覧（5点満点）

|    | 音楽（前期）                                 | ピアノB                                   |
|----|--|--|
| 問1 | Aグループ 4.43<br>Bグループ 4.58<br>Cグループ 4.63 | Aグループ 4.17<br>Bグループ 3.97<br>Cグループ 4.29 |
| 問2 | Aグループ 4.42<br>Bグループ 4.52<br>Cグループ 4.62 | Aグループ 4.06<br>Bグループ 4.13<br>Cグループ 4.36 |
| 問3 | Aグループ 4.68<br>Bグループ 4.69<br>Cグループ 4.82 | Aグループ 4.16<br>Bグループ 4.31<br>Cグループ 4.58 |
| 問4 | Aグループ 4.60<br>Bグループ 4.21<br>Cグループ 4.60 | Aグループ 4.18<br>Bグループ 4.27<br>Cグループ 4.52 |

(表3-1)

2020年度の後期授業アンケートの結果一覧（5点満点）

|    | 音楽（後期） | 音楽表現の探究 | こども文化演習C |
|----|--------|---------|----------|
| 問1 | 4.17   | 4.10    | 4.32     |
| 問2 | 4.35   | 4.17    | 4.37     |
| 問3 | 4.35   | 4.27    | 4.51     |
| 問4 | 4.35   | 4.20    | 4.37     |

(表3-2)

## 自由記述

|          |  |
|----------|--|
| 音楽<br>前期 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ひとりひとりのレベルを見て指導してくれてやりやすい</li><li>・遠隔で分からないところを丁寧に指導してくれた<br/>「でんでん太鼓づくり」「オカリナ制作と演奏」が楽しかった。</li><li>・いろいろな体験ができてよかった。</li><li>・質問がしやすくとても楽しい授業だった。</li><li>・でんでん太鼓を作ったのが楽しかった。</li><li>・記号や音符など詳しく説明されてよかった。</li><li>・自分たちのペースや出来具合に合わせて授業を行ってくれたので、とても授業が受けやすかった。</li><li>・座学だけではなく、身近なものでの楽器作りやオカリナを吹いたり、歌を歌ったりと楽しい授業だった。わからないところもわかるまで丁寧に教えてくれたので良かった。</li><li>・楽典、でんでん太鼓、オカリナ、歌、ピアノなどすべてにおいてバランスが良かった。保育で使えると思った。</li></ul> |
| 音楽<br>後期 | <ul style="list-style-type: none"><li>・毎回毎回の練習でとても丁寧に教えてくださって、もっと頑張ろうと思えた。</li><li>・毎週マンツーマンでできてよかった。</li><li>・分からないところを分かりやすくじっくりと指導してくれた。</li><li>・自分の弾き方のくせを正してくれ、弾きやすくなった。</li><li>・改善点や自分に合う曲を教えてくれて、がんばろうと思った。</li><li>・楽しかった</li></ul>  |
| ピアノ<br>B | <ul style="list-style-type: none"><li>・曲本体に自分が入り込むようになど、ピアノに向き合って引くようなスタイル、感情移入できて楽しくレッスンすることができました。</li><li>・個人の技量やペースに合わせてレッスンしていただけて助かりました。</li><li>・自分のレベルに合わせて弾き歌いを選んでくれた。弾き方を編曲して簡単にしてくれた</li><li>・「できなくても大丈夫」と声をかけてくれたので安心してピアノが弾けた。</li><li>・後期でも授業があるとよい。</li><li>・実習分の授業がなく、回数が少なかった。授業回数を増やしてほしい。</li></ul>   |

|      |  |
|------|--|
|      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レッスン時間にばらつきがあった。</li> </ul>  |
| 音楽表現 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽のことについて深く知れて良かった。</li> <li>・実践しながら、どうしたら子供たちに伝わるかを教えてもらい。学びが深まった。</li> <li>・こどもに音楽を教える難しさを実感しました。</li> <li>・こども達が自分らしく音楽を楽しめるようなかかわり方を考えていきたい。</li> <li>・普段使わない楽器を皆で相談したり、練習したりするのが良かった。</li> <li>・「音楽表現の様々な教え方を学ぶ」等、実践的な授業が多く大変ためになった。音楽経験の少ない自分でも楽しく学ぶことが出来た。</li> </ul> |

(表 4)

#### (1) 音楽

本年度はコロナウイルス感染症の影響で4, 5月はリモート授業となった。リモート授業では「音名」「音符と休符」「拍と拍子」「リズム」を中心とした楽典と、「あさのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」の弾き方動画を作成し、学生が自宅で練習できる内容にした。弾き歌いでは、くり返し視聴ができることにより運指やリズムがいつでも確認できるというメリットもあった様だ。また、学生からの質問にはメールやLAINで回答する方法をとった。6月からは対面授業となり、先述の内容に加え「オカリナ制作と合奏」や本学の自然環境を生かした「音探し」などを行った。問1では、全ての項目で4点台の高い評価となっている。課題提出や出席率も良く、この授業に意欲的に取り組んでいたことが伺える。問2の授業内容については、②の項目で1名の学生が2点の評価を、③の項目では2名の学生が2点の評価をしている。弾き歌いのピアノ習熟度のチェックの際、習熟度の低い学生に時間がかかり、高い学生には短くなってしまったことに対して不公平さを感じていたようだ。教員としては公平になるよう十分気を付けてはいるが、今後は更なる配慮を行いたい。問3、問4では、どのグループも4点台の評価となっており、授業の進め方や授業に対しての評価については、ほとんどの学生がこの授業が有意義なものだったと思うしてくれたようだ。しかし、問4ではBグループが他のグループより0.39ポイント低くなっている。これは、先述した問2に加え、「楽典内容が理解できない」「ピアノが弾けない」などが反映されていると考えられる。次

年度もコロナ過での授業になると思われるが、授業内でのピアノ練習の時間の確保、分かりやすい指導を実践したい。自由記述（対面）ではピアノに関しての記述が多く「ひとりひとりのレベルを見て指導してくれてやりやすい」「遠隔で分からないところを丁寧に指導してくれた」などの意見が複数あった。改めてピアノ指導は対面で行わないと伝わらないことが多いと感じた。また、「でんでん太鼓づくり」「オカリナ制作と演奏」「音探し」などは、保育士＝ピアノが弾ければ良い。と思っていた学生には新鮮に感じたようで、「楽しかった」「いろいろな経験ができてよかった」などの記述があった。楽典に関しては毎年指導法を改善しており、学生の理解度は向上していると思われる。本年度は歌唱指導ができなかったが、次年度では、コロナ過でもできる歌唱指導を取り入れるとともに、学生が楽しみながら学べるような授業を心掛けたい。

後期に関してはピアノの個人レッスンの授業となり、教員ひとりが4～5名の学生を受け持つ。特定の学生としか関われなくはなるが、個々の特徴や性格を熟知でき、よりの確な指導ができたのは良かった。レッスンは対面で行い、コロナ対策として、マスクの着用、ソーシャルディスタンス、換気、手指消毒、楽器を含めた共有機材の消毒の徹底を行った。また、レッスンでは弾き歌いの歌唱は極力せずに、学生各自に自宅での練習を課した。対面の授業内で直接指示を出していないこともあってか、23～25名で3クラスに分けての授業の、およそ1クラス分に近い数が未回答なのは、残念である。問1の4に「1」の評価がある。順調に対面授業を行うことを想定して作られたシラバスは、最後に授業も試験もイレギュラーな対応を余儀なくされた実際とは違ってしまったのだが、社会的状況を鑑みての緊急措置であるので仕方がない。（ちなみに授業に関しては、その性質を考えてリモートとせず、個人で行う練習と登校時間をずらしての1人25分のレッスンを2回分の授業出席と見なす措置等を採用、試験に関しては、本来前期にできなかった「弾き歌い」を、せめて試験時のみは歌唱付きにして評価したかったが、歌唱の部分は断念せざるを得なかった）問2の3で「2」があるが、同じ人物がその4で「4」の評価を示しているため、最後に通常の対面授業が無くなったことによるペースの乱れを示しているのかもしれない。問3の4の「2」評価は、教材自体は初め全員共通なので、一人当たりの時間が短く、本人の希望をうまく引き出せなかったか。／問4では「3」評価が一番低いもので、複数目につくが、その回答内容を見ると全体的に同じ数字をつけていたり、自由記述欄で前向きなコメントをしていたりする者も多く、特別評価が低いとは看做せない。前期の『ピアノA』の開講見合わせで、これが初めてのピアノ実技の授業というのもあり、レベルの把握等に特に初めのうちは

講師側も時間配分に苦勞した。従って、学生からの最後の方の学生のレッスンは短くなりがちという指摘は当たっていたかと思う。ただ、講師側から見れば学生のレベルはもちろん、取り組む姿勢や練習量も影響し、必ずしも時間的なことだけで不平等とは判断し難いケースもあるが、なるべく客観的な基準である時間で区切るよう、講師側も注意していきたい。イレギュラーな形でのレッスン、そして試験という流れは、学生たちもモチベーションを保ち難いのではと心配していたが、試験時には緊張感ある中、完成度の高い演奏ができた学生がほとんどで、見事に対応してくれたと感じた。

## (2) ピアノ B

ピアノ B に関して、学生からの全体的評価の 3 グループの平均値は「4. 3 2」だった。評価としては悪くはないのだが、1 年生後期のピアノの授業に比べ教員数が 1 コマ 5 名から 4 名に減ったこともあり、学生一人当たりのレッスン時間が減少し、満足する指導が受けられなかったと感じた学生が多かったようだ。時間配分についても、平等になるように時間やローテーションには教員各々で配慮をしているが、その日の学生の仕上がりで多少時間に誤差は出てしまう。これからも、学生ひとりひとりに寄り添った丁寧な指導を継続したい。

## (3) 音楽表現の探究

設問全ての項目で、昨年度の結果より 0.2~0.5 ポイント低い評価となった。今年度は、コロナウイルスの影響により、制限のある中で、新しい音楽表現の形を模索しながらの授業となった。回答率が 82%と昨年度より 10%以上低いため比較はできないが、評価が低くなった要因としては、歌唱授業が行えなかったことや、グループワーク等の協働作業が不十分な形で終わってしまったことが影響していると考えられる。また、紙ベースから「EDUNAVI」を使ったアンケートに移行したため、同時期に行われた「音楽」に回答した学生がいた。しかしながら、問 3 の授業の進め方においては 4. 2 2 ~ 4. 3 2 と高い評価は得ており、コロナ過でも音楽を通して子どもたちと一緒に楽しみながらできる活動の方法を提供できたのではないだろうか。自由記述では「授業が楽しかった」「いろいろな楽器に触れられ、また、様々な体験ができた」「音楽のことについて深く学べた」「とても有意義だった」「実践的に学べることが出来た」等の記述があった。評価平均は昨年度より低かったが、記述では演奏する楽しさを理解し、リズム遊びや音遊び、楽器演奏など、子どもとの活動を想定した実践授業が、学生たちの学びにつながったと思われる。本年度は、コロナ感染対策のため、歌唱活動については実践的なことは全く行えな

かった。子どもたちにとって歌うことは、音楽活動の中でも非常に大切であり、学生達にもその楽しさや大切さを体験して感じ取ってほしいと思う。コロナ過においての音楽表現の授業の組み立ては大変困難であるが、新しい方法を探しながら、これからの音楽表現のあり方について考えていくとともに、学生にとって大きな学びとなる授業を展開できるよう更なる研究と努力を続けたい。

## 5. 教育の改善に向けた今後の目標

### (1) 音楽

|              |   |
|--------------|---|
| <p>短期的目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽典の理解と読譜力の向上。</li> <li>・ こどものうたの特性を学びながら歌唱力の向上を図る。</li> <li>・ 音を五感で感じ、様々な手法で表現できる学生を育成する。</li> <li>・ グループワークを取り入れ、音を使った活動の習得と、人との関わり方を学べる授業展開を行う。</li> <li>・ ピアノや楽典では、ひとりひとりの習熟度や性格を理解し、個別指導を取り入れ、より丁寧な指導を行う。</li> </ul> |
| <p>長期的目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設備面の充実を図る。(電子ピアノ等)</li> <li>・ 学園内の自然環境を生かした、音を感じる空間づくり</li> <li>・ 音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。</li> <li>・ 音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。</li> </ul>                                   |

### (2) ピアノ A / ピアノ B

|              |   |
|--------------|---|
| <p>短期的目標</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 楽典の理解と読譜力の向上。</li> <li>・ 拍子やリズム感を養う。</li> <li>・ ピアノ演奏、弾き歌い技術の向上。</li> <li>・ コードや和音を使って学生自身が歌の伴奏をできるような指導を行う。</li> <li>・ レッスン時間の確保。ひとり 18分～20分</li> <li>・ リトミックで活用できる楽曲や演奏法を取り入れた指導。</li> </ul> |
|--------------|---|

|       |  |
|-------|--|
| 長期的目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・設備面の充実を図る。(電子ピアノ等)</li> <li>・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。</li> <li>・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。</li> </ul> |
|-------|--|

### (3) 音楽表現の探究

|       |  |
|-------|--|
| 短期的目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽を楽しむことができる保育者を育成する。</li> <li>・音を五感で感じ、様々な手法で表現できる保育者を育成する。</li> <li>・こどもが使う楽器の奏法を知り、演奏ができる。</li> <li>・こども達に合奏の指導ができる。</li> <li>・正しい発生方法を知り、程よい声量で歌うことができる。</li> <li>・こどもにふさわしい歌い方を指導ができる。</li> </ul> |
| 長期的目標 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽活動を子どもたちとともに楽しみ、子どもたちの感性や感情を育むことができる人材を育成する。</li> <li>・音を使った遊びや活動が考えられる保育者を育成する。</li> <li>・音楽活動を通して地域の社会との関りを持ち、子育て、保育、幼児教育において役立つ人材を育成する。</li> </ul>  |

## 6. その他

毎年2月には入学予定者(初心者・未経験者)に対して、ピアノ演習特別講座を6日間(2コマ×6日)実施している。1回目では入学予定者全員に音楽・ピアノについての調査を実施し、受講が必要と感じられた学生に2回目からレッスンを実施。入学までにピアノに触れる機会を設けることで、ピアノに対しての不安を取り除き、入学後も意欲をもって取り組めるようにすることが目的である。こちらは音楽教員全員で指導にあっている。2021年度入学生については、参加者を募り、コロナ感染対策を行ったうえで個人レッスンを2回実施した。

## 7. エビデンス一覧

- (1) 各科目シラバス (音楽 ピアノ B 音楽表現の探究)
- (2) 授業時配布プリント(一部) (音楽 ピアノ B 音楽表現の探究)
- (3) 試験問題 (音楽前期:筆記 後期:実技) (ピアノ B 音楽表現の探究:実技)
- (4) 成績集計結果 (音楽 ピアノ B 音楽表現の探究)
- (5) 授業アンケート結果の考察